【著作紹介】政策研究を越える新地平　―政策情報学の試み

著者：市川　顕（国際学部グローバル・イノベーション学科　准教授）　【共著】

出版社：福村出版
出版年：2015 年 11 月発行
価格：2,600 円＋税
ISBN：9784571410574

所蔵状況を確認する
http://triton.lib.toyo.ac.jp/detail?bbid=U102367679

内容：
現代の多元的難問への政策研究を、既存の専門閉塞型の個別科学を越えて試みられた政策情報学的思考で論じる。

福村出版の紹介ページ
https://www.fukumura.co.jp/book/b213877.html

教員メッセージ

本書は政策情報学会創設 10 年を記念して企画されたものである。内容的には、国際政治、経営情報学、環境政策、環境計画、環境経済、社会科学、社会福祉サービス、ガバナンス研究、学習・学習支援、地方自治、政治理論と多岐にわたる。

第三部では政策情報学的思考のためのキーワード解説も付されており、政策研究の中でも、とくに、政策科学ではなく、人文社会寄りの政策研究に関心のある大学生以上の読者には一読を薦めたい。

目次

I 部　政策情報学とは何か
　1 章　「政策情報学」の構想（井関利明）
　2 章　人文社会科学の理論的展開と政策情報学という試み（朽木　量）

II 部　諸分野における政策情報学的思考の展開
　1 章　国際政治と政策情報学（山神　進）
　2 章　経営情報学と政策情報学（國領二郎）

3 章　環境政策と政策情報学（仲上健一）
4 章　環境計画と政策情報学（若井郁次郎）
5 章　環境経済と政策情報学（小泉國茂）
6 章　社会科学と政策情報学（松田憲忠）
7 章　社会福祉サービスと政策情報学（狭間直樹）
8 章　ガバナンス研究と政策情報学（市川　顕）
9 章　学習・学習支援と政策情報学（濱野和人）
10 章　地方自治と政策情報学（髙木昭美）
11 章　政治理論と政策情報学（中道寿一）

III 部　政策情報学的思考のためのキーワード

＊ヴァナキュラーな知
＊コンヴィヴィアリティ
＊コンテクスト／関係論
＊市民目線
＊重層的非決定
＊多元主義
＊超領域
＊ツリーとセミラティス
＊認識論的転回／存在論的転回
＊物語性
＊臨床の知／実践の知

[著者]　市川　顕（イチカワ　アキラ）

21 世紀は環境の世紀といわれます。そして、持続可能な社会の構築は、現在の政治・経済・社会体制にとって大きな挑戦となっています。そこで求められていることは、①世代を超えた公平の達成、②自然環境をコストとして内部化した市場経済の達成、③自然に権利を与える法体系の達成、④グローバルから個人にいたるまでの多層にわたる環境改善への挑戦、⑤国際機関、国家から個人にいたるまでの多様なアクターの協働の達成、⑥他部門政策における環境配慮の統合の達成、でしょう。
私の研究活動においては、多層・多様なアクターによる持続可能な社会の構築に向けた環境ガバナンスを鍵概念として、アクター間、多層間、学問分野間のコミュニケーションの態様を示し、持続可能な社会に向けた取り組みを把握することを目標としています。

関連リンク

東洋大学研究者情報データベース（市川顕准教授）
http://ris.toyo.ac.jp/profile/ja.08cae0a60c6f5e8f6c64ab225285e120.html